



わたし、アナタ、min-na

No.26

そのすがたがうれしい

SSH 編

2022年 9月8日 市立札幌開成中等教育学校 便り
〒065-8558 札幌市東区北22条東21丁目1-1
TEL 011-788-6987(代表) FAX 011-781-5629
HP <http://www.kaisei-s.sapporo-c.ed.jp/>



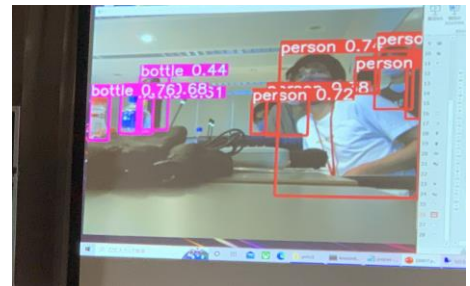
<先端科学特論 農研機構北海道農業研究センター研修>

8月17日(水)に本校4年次25名が先端科学特論として、北海道農業研究センターにて研修を行いました。現地では、防護服を着用し、牛舎に入り、研修を行うという貴重な体験もさせていただき、研究員の方が日々取り組まれている研究について講演していただきました。研究の内容は、ドローンを利用して、スマート農業の実現を目指して研究をしていたり、映像解析をAIで行い、乳牛を観察することにより、怪我や病気、発情などに対応できる状態を作っているとのことでした。農業で利用されているAIの前に立ち、どのように判断されているのか生徒も興味津々でした。また、最後は農研機構の方も合わせて、エシカル農業について議論させていただき、農研機構の方から、開成の生徒と議論していて、こちらが予想もしていないようなことに着眼しており、驚いたというようなコメントをいただきました。



以下、生徒のリフレクションです。

- 私はPPで植物性の食事について研究をしていたため、農業の環境への取り組みに興味があった。実際に農研機構で働いている研究員の皆さんはそれぞれのテーマの中で環境や有効活用など持続可能な社会のために研究していると感じた。やはり環境問題は全ての人が考えなければいけないことだと改めて感じ、研究員の皆さんの発表を聞いて、環境のために研究して行動している大人がいるということに改めてしるすことができた。また、牛が牛舎に入っているところを間近で見て、繋がれているのが怖いと思ったし、小花和さんなどの研究員でも怖いと思うと知った。これは私たちが加工されたものしか目にしておらず、なぜ私たちは肉を食べられるのか、牛乳を飲むのか知らないからだと思った。環境問題とアニマルウェルフェアなども注目されている中、家畜と人の関係はもう一度考え、まずは現実を知ることが必要だと感じた。
- 今までは農業は都市部とは外れた場所で行われている印象があったが、札幌にあることで、比較的都市部での農業の形について考えるきっかけになった。エシカル酪農やアニマルウェルフェアという言葉聞き、生産・消費という人間にとって都合のいい農業から人間と動物の共生を考えた農業を意識していくことが、求められるものになっていくべきだと考えた。



<1年・4年 ディベート講演会の実施>

8月23日(火)の3セッション目コズモプロジェクト内で、1年生と4年次生に対して、「ディベート講演会」が行われました。この講演会は、ディベートの基礎知識や方法について知ることを目的に例年実施しています。講師として、北海道科学大学未来デザイン学部人間社会学科の佐々木智之准教授をお呼びしました。講演会の中では、ディベート甲子園全国大会への出場経験のある本校5年次生徒5名によるモデルディベートも行われました。協力してくれた5年次生徒からのコメントを、以下に掲載します。

- ・1年生、4年生、そして先生方の前でディベートを披露できることはこの上ない喜びでした。
- ・ディベートで学んだことを多くの人に伝えることができ、非常に有意義な講演会でした！
- ・関わられて光栄でした。この講演会を通じて、ディベートが次世代へとつながっていけば幸いです！
- ・オンラインからの参加ではありましたが、多くの方にディベートの趣深さを知ってもらえたら光栄です。
- ・ディベートを通じて身につけたスキルと仲間、そして経験に感謝♪

★全国ディベート連盟北海道支部主催のディベート入門講座が9/18(日)に開催予定！詳細はラウンジ掲示板を！

＜マスフェスタ 参加報告＞

8月27日に大阪で行われた「マスフェスタ・全国数学生徒研究発表会」に5年生の3名が参加してきました。これは数学に関する課題研究等の取り組みの研究発表を行うことにより、数学に対する興味・関心を高め、数学教育活動の発展に資することを目的に行われています。3名は「グラフ理論を用いた安定結婚問題に関する考察」という研究テーマに取り組み、発表も動画を用いてわかりやすく伝わるように工夫していて、他の参加者から高い評価をいただきました。レベルの高い発表が多く、自分たちの研究をより一層高める機会にもなったと思います。来年はより多くの生徒の参加を期待しています！以下参加した生徒の感想です。



マスフェスタに参加して、日本中の数学を研究している高校生と交流することができた。また、研究の内容も日々の授業の発展的な内容や、聞いたこともないような分野の発表など多種多様で、自分の数学の知識を広めるきっかけになった。特に私たちの研究と近い内容の発表では、その分野のより深い理解に繋がりととても刺激となった。発表に対する質問も痛いところをついてくるような質問や、これからの研究の進路を考える上での助けになるような質問が多く、研究のレベルアップにつながった。今回得た発表のスキルや数学の知識をポスターセッションなどを通じて開成生と共有したい。

マスフェスタには去年も参加して二回目の参加だったが、去年の反省も生かしてより価値のある研究発表会にすることができた。自分たちの発表を聞いてくれた人たちが「4月から研究を始めてこの内容の濃さはすごい」と言ってくれたのが素直に嬉しかった。発表スタイルもiPadで動画を流す、ポスターのデザインを工夫するなどすることで、聴衆にとってわかりやすい形にすることができたと思う。また、発表の際に笑いを取ったり、細部まで気配りをしたりすることで、聴きに来てくれた人たちに楽しく快適に発表を聞いてもらうことができた。去年とは違って聴きに来てくれた人の数人と仲良くなれたのも、その辺りの努力の賜物だと思う。

＜科学の甲子園ジュニア＞

8月24日(水)放課後、道内の各参加校において、科学の甲子園ジュニア北海道大会一次選考が行われました。「科学の甲子園ジュニア」とは理科、数学等における複数分野の競技に協力して取り組むことを通じて、科学の楽しさ、面白さを知り、科学と実生活・実社会とのつながりに気付き、科学を学ぶことの大切さを実感することなどを目的に開催されています。今年度は1・2生から15チーム45名が参加しました。昨年度からの参加者もおり「今年度こそは一次選考を通過するぞ！」と意気込んで試験にのぞんでいました。また試験は3人で協力して取り組む形式で、得意分野を活かし分担したり、分からない問題には話し合いながら取り組む姿が印象的でした。



【紹介】コスモサイエンス課題研究 北海道大学のサポート

8月4日(木)にコスモサイエンスで「人工心臓」の研究をしているグループ(5年生4名)が、北海道大学病院に行き実際に、人工心臓を装着している患者さん2名にインタビューをしてきました。特にドライブレイン感染を防ぐ対策を研究しているので、患者さんの日常生活の話や、お医者さんからの講義は、今後の研究に役だったようです。最後には、実際の人工心臓に触れる機会を与えてもらい充実した3時間でした。

生徒の感想「今回、実際に患部を見せてもらい、お医者さんに治療過程や研究のアドバイスを頂いたことで、今後の研究の展望が開け、とても貴重な体験となりました。」

